



年頭のご挨拶

国保制度大改革の動きをとらえて
議論の場に適切に参画するとともに、
組織体制の充実強化に努めていく



熊本県国民健康保険団体連合会
理事長 大西 一 史

平成 29 年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、日ごろから本会の事業運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、熊本地震により、多くの皆様が被災されるとともに、県内各所に甚大な被害が発生し、未曾有の大災害となりました。改めまして、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、私たちが携わる国民健康保険制度は、すべての国民が公的医療保険に加入することで、誰もが、いつでも、どこでも医療を受けられる国民皆保険の最後の砦として、制度発足以来、国民の皆様の健康を守る大きな役割を担っております。

しかしながら、国保制度の現状は、被保険者の年齢構成上、中高年齢者が多く、医療費の増嵩が年々著しいことや、また就労形態の変化によって所得に占める保険料（税）の負担率が高くなるなど、数多くの構造的な問題を抱えており、その財政運営は極めて厳しいものとなっております。

そのような中、一昨年に改正された国民健康保険法に基づき、安定的な財政運営や効率的な事業遂行等を目指して、平成 30 年度から都道府県が財政運営の責任主体となることなどを内容とした、歴史的ともいえるべき国保制度の大改革が進められており、本県でも現在、熊本市町村国保連携会議や検討部会において、財政運営の県単位化に向けて国保事業納付金の算定や事務の共同化などについての議論がなされております。

本会といたしましては、このような制度の動きをしっかりととらえ、議論の場にも適切に参画するとともに、今後の業務環境の変化に的確に対応していくため、業務の効率化や職員の育成など組織体制の一層の充実強化に努め、保険者の負託に応えるべく努力してまいりたいと考えております。

皆様におかれましては、今後とも本会に対しましてさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年のご多幸とご発展を心から祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

平成 29 年 1 月